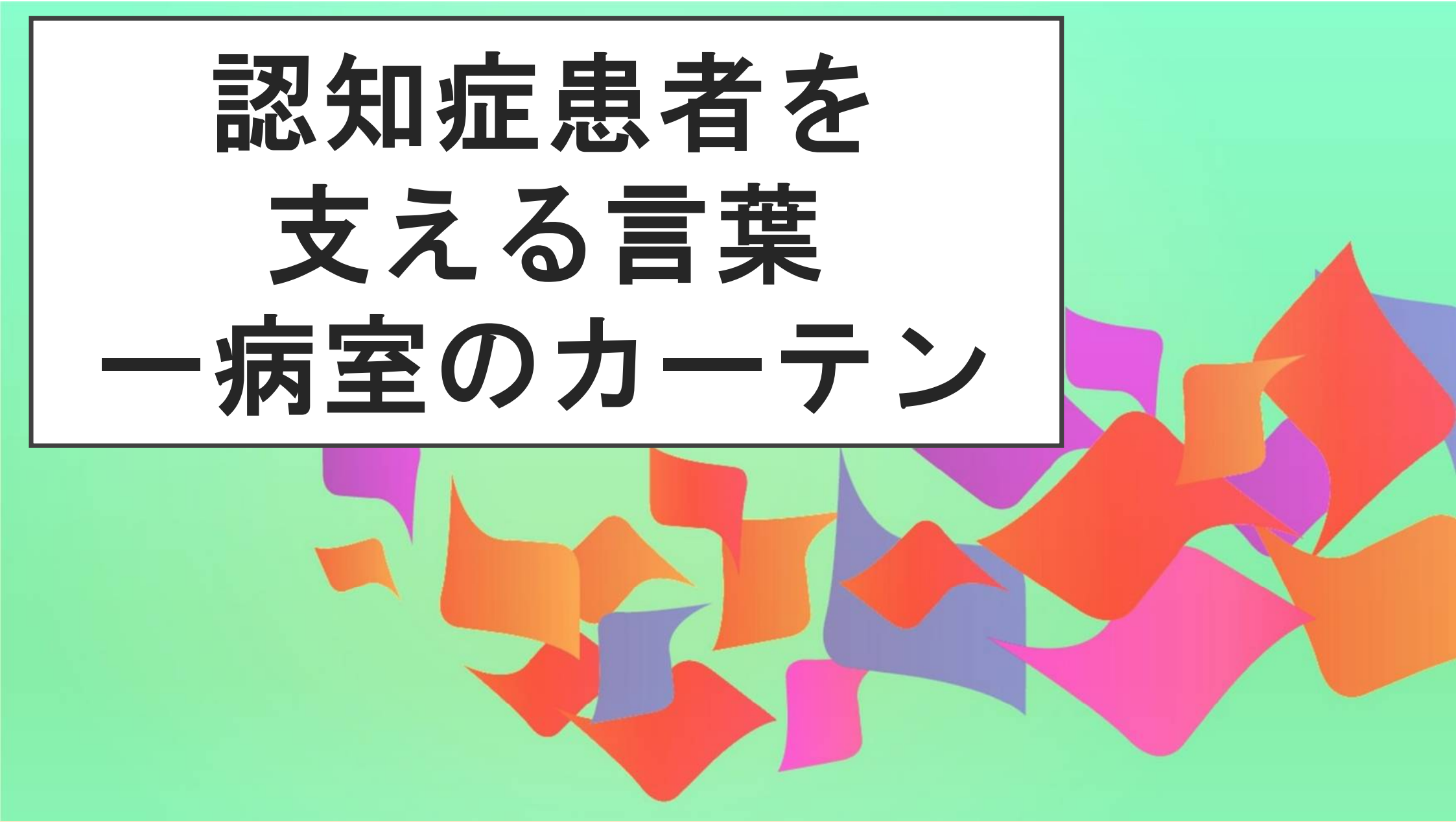
認知症患者を支える言葉

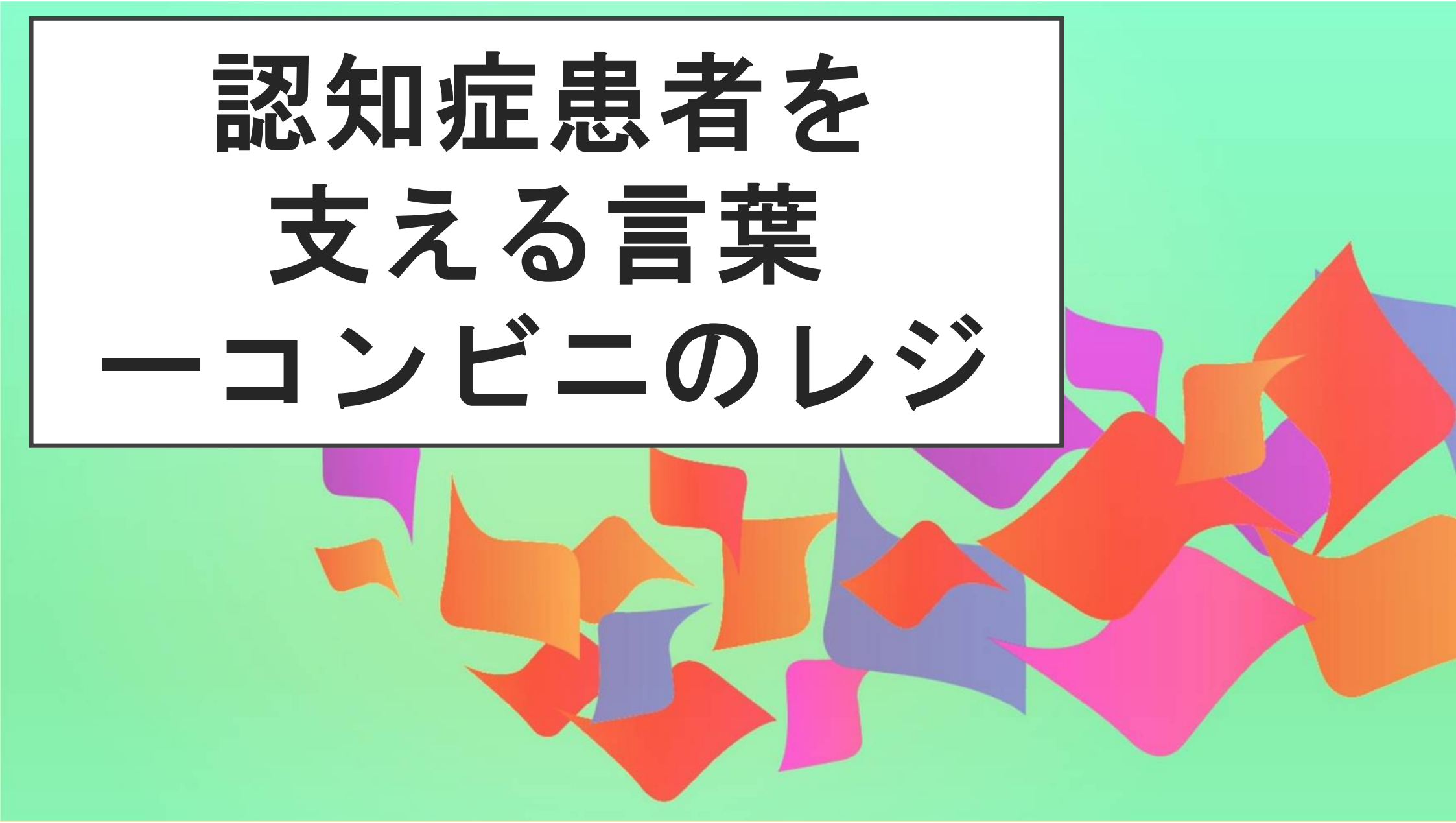
認知症患者を
支える言葉
―病室のカーテン



医者は「目が見えなくなるよ」
掃除する人「今日も煩わしい天気ですね」と言ってカーテンをしめたままにしてくれていた。
医者、看護師もそうあってほしい。

認知症患者を支える言葉
（病室のカーテン）

認知症患者を
支える言葉
ーコンビニのレジ



レジで患者のおばあちゃんがティッシュペーパーを出したら、「こんな大きいお金だとお釣りがないから、もっと小さいお金はないの？」と言って、財布から小銭を一緒に探してくれた。
そのおばあちゃんは、そのコンビニに毎日のように来ている。

同じコンビニで、アルバイトの高校生が、買い物がおばあちゃんの出した１０００円を超えていたので、商品をいつもの安いほうに取り換えてくれた。

認知症患者を支える言葉
（コンビニのレジ）

① 交流分析の言葉でいえば、擁護的な親心（ＮＰ）と従順な子ども心（ＡＣ）との「相補的交流」が期待される。

② 同時に、患者のプライドを傷つけないように配慮する必要がある。

③ 「上手にだましてほしい」という言葉の意味を考えたい。

「認知症患者を支える言葉」
のポイント